

9 特別集中講義 「釈尊の誕生を考える—インド哲学研究者として」

〈全4回〉

まるい ひろし
丸井 浩

武蔵野大学・特任教授
公益財団法人 中村元
東方研究所・常務理事
東京大学名誉教授



受講料	会員	5,200円)
	一般	10,400円)

【日程・時間】 3/10 13:30~15:00・15:20~16:50

3/11 10:30~12:00・13:30~15:00

【テキスト】レジュメ配布

私はインド哲学を専門にしています。学生時代、仏教の講義も演習も出ましたが、正直申しあげて、仏教はよく分かりませんでした。かろうじて「分かった」といえば、「仏教論理学」くらいでした。そもそも当時の私には仏教に内在する豊かな思想的意味を汲み取るだけの心の準備ができていなかったのだと思います。またインド哲学を研究したといっても、その研究の実質的な中身は、難解なサンスクリット語で書かれたインド哲学原典を、パズルのように読み解く知的ゲームに多くの勢力を注いできた、という面が多かったのです。

ところが五十歳を過ぎた頃あたりでしょうか、ふとしたことから仏教が説く「無分別」の重要性が、にわかに自分の心に染み入るようになり、以来、仏教思想が次第に親しみやすいものへと変わっていきました。そればかりでなく、いささか未来への展望を失い、生きる意味を喪失している観のある現代という時代に生きる一人の人間として、仏教の意味をもっと考えてみたい、という思いが湧き出てきました。

ただ私は仏教論理学文献を除けば、仏教文献を専門家として研究した経験はあまりありませんので、多くの場合は、信頼できる翻訳を頼りとしながら、必要に応じて原典に遡りながらではありますが、それでも少しずつ仏教を学び始めています。中村元先生が残された膨大な仏教研究の数々の成果もまた、少しずつ私なりに考える機会が増えてきました。

前置きが長くなりましたが、以上のような事情から、今回の集中講義では、釈尊の生涯とその教えをあらためて考え直す一つの入り口として、「釈尊の誕生」について、多分に素人的な発想、疑問を生かしながら私なりに考えたところを、皆様にお話をしたいと思います。

参照する仏典は主に仏伝資料です。つまり、釈尊の生涯と前生における功德を称えるさまざまなテキスト資料（の翻訳）にもとづき、かつ中村先生の業績をはじめとして、優れた過去の仏教研究の成果に導かれつつ、受講生の皆さんと、釈尊の言行を語り伝える仏典資料の意味を探ってみたいと思います。

授業で取り上げる予定の主な話題を以下に簡条書きします。

1. 「仏教」という言葉と、「宗教」という言葉について。
2. インドに生まれた諸宗教の中で、仏教が占める意味
3. 『徒然草』の最終段について。
4. 仏伝資料と仏伝研究について。
5. 釈尊が誕生する前の話。
6. 釈尊誕生の不思議とイエスの受胎告知。
7. 右脇から生まれる意味。
8. 誕生傷「唯我独尊」と二宮尊徳

皆さん、どうかお気軽にご参加下さい。